

し、最も発達した段階では、その中に4~6個のセルを含み、幅10km前後、長さ30~50kmの大きさとなった。

なお、本研究の一部は文部省科学研究補助金(自然災害科学資料災害特別研究「降雨災害をもたらす豪雨の集中度に関する研究」代表者名古屋大学・武田喬男)によった。また、レーダ解析と図形処理には九州大学大型計算機を使わせて頂いた。付記して謝意を表す。

文 献

- 荒生公雄, 1986: 10分間降水量でみた長崎豪雨の構造, 天気, 33, 17-26.
- Browning, K.A., J.C. Frankhauser, J.P. Chalon, P.J. Eccles, P.G. Strauch, F.H. Merrem, D.J. Musil, E.L. May and W.R. Sand, 1976: Structure of an evolving hailstorm, Part V: Synthesis and implications for hail growth and hail suppression, Mon. Wea. Rev., 104, 603-610.
- 長谷川隆司・二宮洗三, 1984: 静止気象衛星データからみた長崎豪雨, 天気, 31, 565-572.
- 早川誠而, 元田雄四郎, 坂上 務, 井田秀治, 1987: 帯状エコーの中で発達した対流雲のレーダエコーの特徴—1985年6月28日, 北部九州たつ巻発生を主とした一, 天気, 34, 29-43.
- 早川誠而, 鈴木義則, 前田 宏, 元田雄四郎, 1989: 1983年9月6日の福岡市における豪雨の特徴—アメダス資料を主とした解析—, 天気, 36, 121-126.
- 石原正仁・榊原 均・柳沢善次・松浦和夫・青柳二郎・今泉孝男, 1987: 2台のドップラーレーダーによって観測された関東地方の雷雲の内部構造, 天気, 34, 321-332.
- 小平信彦, 立平良三, 1972: エコーパターンの一般的特性, 気象研究ノート, 112, 73-89.
- 長浜宗政・尾崎康一, 1974: 1973年7月31日寒冷前線による福岡県の集中豪雨について, 天気, 21, 455-464.
- 長浜宗政・渡辺 勉, 1973: 集中豪雨のメソ解析と降雨及び山崩れ出水の状況, 気象庁技術報告, 84, 38-63.
- 大沢網一郎・尾崎康一, 1959: 諫早市の豪雨解析, 研究時報, 11, 829-838.
- Seltzer, M.A., R.E. Passarelli and K.A. Emanuel, 1985: The Possible Role of Symmetric Instability in the Formation of Precipitation Bands, J. Atmos. Sci., 42, 2207-2219.
- 武田喬男, 1985: 積乱雲とその群, 大気環境とその変動をさぐる, 47-116.
- 渡部浩章, 1984: 昭和58年7月豪雨の解析, 天気, 31, 739-746.

月例会「第33回山の気象シンポジウム」のお知らせ

日 時: 平成元年6月17日(土)13時~

場 所: 気象庁第一会議室(5F)

講演希望の方は演題に200字以内のアブストラクトをつけて、4月末日までに気象庁通報課岡野光也(〒100千代田区大手町1-3-4)まで郵送して下さい。